

第2回 新たな都市像検討委員会

議事概要

■日程・場所

日時：令和5年7月14日（金） 10:00～11:30

場所：金沢市役所第二本庁舎 3階 2301会議室

■出席者名簿（敬称略・五十音順）

役職	所属等	氏名	備考
委員長	金沢大学 学長	和田 隆 志	
委員	金沢商工会議所 会頭	安 宅 建 樹	
	金沢工業大学 情報フロンティア学部学部長 メディア情報学科 教授	出 原 立 子	欠 席
	金沢市社会福祉協議会 会長	高 柳 晃 一	
	（一財）石川県芸術文化協会 理事長	久 保 幸 男	
	（一社）金沢経済同友会 代表幹事	砂 塚 隆 広	欠 席
	ダイヤ精機（株） 代表取締役 内閣官房 新しい資本主義実現会議 委員	諏 訪 貴 子	オンライン
	金沢市公民館連合会 会長	竹 上 勉	
	金沢学院大学 教育学部教育学科 教授	田 邊 俊 治	欠 席
	未来へつなぐ金沢行動会議 代表	谷 口 亮 輔	オンライン
	石川工業高等専門学校 副校長 建築学科 教授	道 地 慶 子	
	金沢市町会連合会 会長	中 川 一 成	
	金沢まちづくり学生会議 代表	中 谷 陽	
	金沢市校下婦人会連絡協議会 会長	能木場 由紀子	
	（一社）金沢市観光協会 副理事長	八 田 誠	
	（独）都市再生機構 東日本都市再生本部 副本部長	松 永 浩 行	
	金沢大学 融合研究域融合科学系 教授	眞 鍋 知 子	
	東京女子大学 副学長 現代教養学部国際社会学科 教授	矢ヶ崎 紀 子	欠 席
金沢美術工芸大学 学長	山 崎 剛		
事務局	金沢市長	村 山 卓	
	金沢市副市長	新 保 博 之	
	金沢市副市長	山 田 啓 之	
	金沢市都市政策局長	村 角 薫 明	
	金沢市都市政策局企画調整課長	津 田 宏	

■次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 議題 新たな都市像の構成案について
4. 閉会

■配布資料

<資料1> 新たな都市像の構成案について

■会議概要

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 議題 新たな都市像の構成案について

山崎委員：・新たな都市像に掲げられている内容は、バランスが良いものになっているが何が突出しているかは分かりづらい。

- ・金沢の工芸が素晴らしいが故に工芸という言葉が強調されているが、良し悪しがある。工芸を大きく語ることによって、外から小さく見えることもありえる。工芸は文化の様々なジャンルと接合しながら活かされている分野であり、工芸を本当に活かすためには、あらゆる文化のジャンルをバランス良く強化していくことが必要で、その先に工芸の新しい発展がある。
- ・工芸文化を更に活性化させるために、従来の美術・工芸・デザインだけでなく、先端的な現代アート、そして音楽・演劇を含む様々な芸術ジャンルにおける支援の強化をお願いしたい。将来的に金沢のアートセンターが形成され、金沢モデルが主張されていくことが重要。その中で、金沢美術工芸大学が担う役割はとても重要だと考えている。本学は10月に移転するが、平成28年度に金沢市が策定した『金沢美術工芸大学移転整備基本構想』には「まちなかの活動拠点としてサテライト施設を設置」とあり、地域への貢献が謳われている。10年、20年、30年先を見据えれば、まちなかにおけるアートセンターの推進役として、新たな教育研究の分野を開拓するとともに、美術・工芸・デザインの教育研究成果をまちなかで発信する場を求めていきたい。
- ・金沢はあらゆる芸術ジャンルが揃い、整っている。金沢は世界の芸術文化都市として発展する土壌があるため、今後も期待したい。

中谷委員：・基本方針5の中に、「定住促進」とあるが、行動計画に、学生の定住促進の視点も盛り込んでいただきたい。学都と呼ばれている一方で、金沢に就職するよりも、都心に出ていく学生が多い印象を受ける。参考資料では、人づくり・仕事づくり・都市づくりという3つのテーマにおいて、学生の定住につながるような意見が出ている。学生の定住に関しては、仕事づくりに関わっていると考えている。仕事があるから金沢に定住すると学生は考えるため、仕事づくりに、学生の定住につながる意見を盛り込んでいければよい。

谷口委員：・進め方に関して、現状と10年後を見据えた際に、何ができていないのか、何をしなければならないのかを考える必要がある。提案があった基本方針を見ても現状が見えてこないように感じる。

- ・単語の意味について認識を合わせる必要がある。デジタル人材や外部人材と

いった単語があるが、何をもってデジタル人材とするのか認識を合わせないと方策が練れない。デジタル人材については、プログラミングやAIなどの高度な技術を求めるのか、それとも、デジタルに慣れ親しんでいない高齢者でも、ある一定のレベルまで利用できるようになることを目指すのかなど、方策を練る際には擦り合わせが必要だ。

- ・様々な子育て支援があることを、自分自身が子育てをして、初めて知ることができた。未来に向けて、高校生や大学生、若手社会人等、これから子どもを持つであろう世代に、市の子育て支援について伝えていく視点も重要。

久保委員：・基本方針1(1)文化芸術による豊かな心と創造力の醸成 では、文化の豊かさを継承していくことは重要であり、そのための環境づくり、市民がいかにこの文化に対しての理解を深め、それが生活に密着しているかという視点が明記されている。

- ・(4)世界の人々が憧れ滞在する歴史・文化のまちづくり について、文化観光という面で、金沢は全国でも稀な場所である。金沢には総合的な文化が育まれており、素地はあるが活用方法は手薄に感じる。現代アートや音楽祭、お茶席など、金沢では様々な文化体験ができる素地がある。このような文化をうまく結び付けて発信し活用してもらうことで、交流人口の拡大につながる。
- ・DXに関して、あるプログラミングの大会で金沢の小学生が素晴らしい提案をしていた。近江町の駐車場の空き具合をデジタルで情報発信すると同時に、八百屋で販売している季節の野菜の情報やその調理方法、それを提供している飲食店等の紹介等、総合的な情報を発信するプログラミングの提案であった。このように、DXをうまく活用することで、海外からの旅行者も含めて、文化を楽しめるまちへの発展が期待できる。

八田委員：・デジタル化、グローバル化が進んでいる中で、市が目指す将来像を、今後、発信していく際には、日本人だけではなく、外国人にも伝わるように、英語でサブタイトルをつける等をして、金沢のセールスポイントが分かるようにできるとよい。今後、行動計画を策定していく中で、個別具体の話になっていくと考えられるが、都市像の位置づけ・意味合いとしては、アピールという視点も組み込めたらよい。

高柳委員：・金沢の社会福祉の分野では、地域住民、民生委員、町会、婦人会の方々による地域の支え合い活動には素晴らしいものがある。しかし、地域住民の間であっても、どうしても支える側と支えられる側で二分化されてしまう傾向がある。今、福祉の現場では、ひきこもりや生活困窮で孤立している人、独居老人、障害がある人等、かつては支えられる側だった人が、他の人との関わりや活動の

場を通して、支える側になるという実践が進められている。こうした取組は「参加支援」という言葉で厚生労働省もはっきりと打ち出しており、金沢市をはじめ行政の分野でも促進されつつある。これまで支えてきた側も、いつ何時、支えられる側になるか分からない。多様な主体の参画に加え、支える側、支えられる側の関係を超えた、支え合いの地域づくりといった新しい視点を加えていただきたい。

- ・基本方針2（3）に記載の、「豊かな福祉意識の醸成」では、将来を支える子ども達をターゲットに据え、福祉意識の醸成を図ることが非常に重要だ。子どものうちから、保育所や病児保育をはじめ、子育て支援に関する福祉サービスを分かってもらうことで、安心して子どもを産み育てられると感じてもらえるようになればよい。
- ・基本方針2の「（2）健康で心豊かに暮らせるまちづくり」は、「医療体制の充実・強化」「健康危機管理への対応」などの内容から、基本方針2の表題と比べ唐突すぎる印象だ。順番からすると、（3）の方が上にある方がよいのではないか。

中川委員：・10年後、20年後、どのような姿に金沢がなっているか、大きな位置づけとしてはっきりと示されているとより分かりやすい。

- ・地域コミュニティにおいては、人材育成について悩ましい時期に突入した。また、様々な世代の方が地域づくりに携わっているが、世代間の連携がこれまで以上に難しくなることが想定される。世代をつなぐ連携についての視点も取り入れていただきたい。
- ・まちなかにどのような施設がどういう風に点在しているかという情報が分かりづらいように感じる。例えば、まちなかにAEDはどこにあるか、使えるトイレはどこにあるのか等が分かるデータベースが構築されていると暮らしやすくなる。また、例えば、2時間空き時間がある場合、その時間内で観光できるルートや施設はどんなものがあるかを検索できる仕組みがあると他地域から来た人にも分かりやすい。デジタルを活用して暮らしやすさを向上させるデータベースを構築できればよい。

眞鍋委員：・提案いただいた都市像の構成案は、総花的で、これまでの施策や計画をそのまま並べただけのようにも見えてしまう。これからKPIを設定するのか。もしかしたら、行動計画に反映されるのかもしれないが、何を重点的に、何を最優先にし、何を加速度的に行っていくのかを10年間の中で、短期、中期的な取組みとして目標を立てた方がよい。

- ・新たな都市像の何が新しいのかを市民が見ただけで分かるように、内容やコンセプトを一言で表すようなサブタイトルを考えるとよい。

竹上委員：・教育は、息の長い対策・対応が基本。都市像は10年後に何が創造できるかといった視点を持ち、夢を持てるような教育環境や学びの場が見えるような形でできればよい。提案のあった基本方針の各項目は大切であり、地に足をついた対応も重要だが、基本方針の上位に夢のある目標があるとよい。

・自然環境を活かした都市づくりの視点も盛り込んでいただきたい。金沢市は、戦災を受けていないため、魅力的な樹木が多く、それを都市景観に組み込むことで、人々が住みやすい生活空間を作ることができる。現状では、自然環境を活かした都市づくりの視点は弱い。基本方針5(2)都市の個性や品格が感じられるまちづくりの項目の中に、言葉では入らないかもしれないが、樹木についての視点も盛り込んでいただきたい。魅力的な樹木を保護・保全しながら、全体としての都市景観を考えていただきたい。

能木場委員：・金沢は、戦国、江戸、明治、大正、昭和の時代を経ても、昔から変わらないものを積み上げながら、時代ごとの良いものを残している全国を見ても稀なまちだ。市内の中心部だけでなく、郊外においても多くの良いものが残っている。自分が住んでいるまちに愛着を持ち、そこに住み続けてこそ自分の地域を大事にする力や他の人に伝えていく力が育まれる。

・小学生の子どもは10年経つと、地域の良いところを伝えることができる大人になる。自分たちの住んでいる地域が、金沢が良いところだと皆さんに知っていただく原動力になっていただきたい。私の住んでいる地域では、幼稚園の年長が謡の練習をして、地域のお祭りで発表する行事が何十年も続いている。小さな頃に謡の練習をしたことを覚えており、大人になってから本格的に教室に通うことにつながれば、金沢にとっても大きな人材となる。

安宅委員：・昔は、加賀友禅を着てまちを歩く人がたくさんいたが、現代では着物を着る人が少なくなった。市民生活から着物が離れることにより、着物が売れなくなり、職人が減少し、大切な技術が伝承されない状態にある。金沢の伝統産業は使われないと意味がない。金沢市民自ら伝統芸能や文化を守ろうという意識を高める努力が重要だ。子どもの頃から、文化に触れる機会を増やすことができれば、伝統産業も存続していく。

・空き家については切実な問題であり、空き家があると景観も損なわれてしまう。また、金沢のまちをシャッター通りには絶対にしたくない。そのために商店街の魅力をどう作っていくかが大切だ。市、商工会議所、金融機関などが連携し、商店街の様々な課題解決に向けた伴走支援を行っている。加えて、空き店舗にて若手事業者に新しい取組に挑戦してもらうなど、商店街全体のコーディネーターによる活性化も行われている。このような取組を、今後さらに強化し、シャッターが下りない商店街を存続していくことが、金沢の魅力の低下を防止につながる。

- ・金沢をカラスの少ないまちにするために、カラスを減らす方法を考えていただきたい。
- ・商店街店舗でのキャッシュレス化やビジネスにデジタル技術を取り入れる等 DX についてもこれからの前提にしていきたい。

- 諏訪委員：
- ・コロナ禍で落ち込んだ業績、その間に抱えた債務、昨今のエネルギー価格高騰、物価高、円高等、企業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、今までのビジネスモデルでは対応できない企業も数多く出てきている。まずは、経営基盤強化から始め、そこから ChatGPT を含む新技術の開発、新製品、サービスの開発、グローバル展開、コロナ後の新たな時代におけるチャレンジ、イノベーションの創出をした後に、女性活躍や高齢化社会、気候変動対策等の社会ニーズを的確に捉えたビジネス課題に貢献するスタートアップや中小企業を排出していく必要がある。
 - ・これからはキャリア教育が非常に重要になり、キャリアをどのように形成していけばよいのか学生のうちから学ぶ必要がある。そこで、大企業や中小企業の創業者や後継者など様々な方々の講義を学校で設けるとよい。それにより、起業者の増加やスタートアップ企業への就職の後押しになる。
 - ・DX は進み始めているが、次は GX (Green Transformation) が課題となる。GX については、東京都の企業でも、8 割は取組ができていない。今後、金沢市としても、GX に取組む企業を増やしてための方策を考える必要がある。
 - ・東京都では、ヘルスケアや介護市場が今後の成長分野として見込まれている。今後の参考にしていきたい。
 - ・女性の地位を向上させるためには、女性の起業家を増やすことにも重点を置いていただきたい。起業家を増やすからには、女性経営者への支援も必要だ。東京都では、2018 年から女性経営者への支援を行っており、女性経営者が 4 万人程度増加したが、それでも経営者全体の 2 割弱だ。今後 10 年間で、女性経営者への支援に力を入れ、最終的には、誰もが参画できるような環境になるとよい。
 - ・KPI、KGI を設定することで、市民にも分かりやすく伝わりやすくなる。都市像の周知についても検討していただきたい。

- 道地委員：
- ・基本方針 1 (3) 都市の品格と重力が両立する魅力あふれるまちづくり とあるが、「重力」の意味を教えてください。

事務局 (津田) ：

- ・「重力」は、人を惹きつける力という意味で使用している。

- 道地委員：
- ・都市づくりの観点で「重力」という言葉の意味を考えると、人口が集中しているといったような意味で使用されるため、惹きつける意味で使用するのは良

いと思うが、一般的に分かりやすい言葉に変えた方がよい。

- ・地元定着率について、金沢市では様々な施策を講じている。地元定着率を上げるためには、人づくりも仕事づくりも、暮らしづくりも、都市づくりも必要であり、それが魅力づくりに繋がっていく。現状を整理すると、各テーマで連動している課題が多い。現在の構成案では連動性があまり感じられないため、連動する課題の解決に向けた包括的な指針づくりをしていただきたい。

- 松 永 委 員：・基本方針5（1）に記載のある「面的な価値の向上」について、東京では構想や計画も含めて今後大量の業務床が造られる予定であるが、新しい価値創造に取り組んでいく必要性が生じてきている。これまでの不動産事業は建物を造り、リーシングをして企業に入居してもらうというのが主流であったが、現在は、開発事業者はベンチャーキャピタルへの投資も含めて、新規ビジネス等の新しい価値を創造しながら入居する企業を育てるという時代に変化してきており、各企業が人材育成を含めた取組を行っている。金沢市でも、老朽ビルの建替促進や再開発等のハード整備に人材育成や企業の仕事づくりの視点を加えることで、単なるハード整備だけではない、魅力・価値の向上につながっていく。
- ・福祉の項目で高柳委員がお話された『支える側と支えられる側の堺をなくすことが必要』という意見にもあったが、地域内部経済を循環させるためには、サービスを受ける側、提供する側の境を無くすことが重要。公共サービスは無料で受けられて当たり前のように思われるが、それをいかにビジネスに変えていくかを考えていくことで、新しい仕事が生まれ内部経済の循環・活性化につながる。
 - ・10年後、20年後を見据えた際、主役は若者が中心になるように思うが、シニア人材をどのように社会貢献活動に参加させていくか、リスタートさせていくかといった視点(ヴィンテージソサイティ)も必要だろう。地域内部経済が循環するようなサービスの提供側に、シニア人材を活用するような仕組みができれば良い。

- 山 崎 委 員：・基本方針1の「世界に誇る」という言葉に違和感を覚える。金沢の伝統や文化は既に世界水準であり、言わずもがなだ。
- ・基本方針1（4）に記載のある、「住む人と訪れる人が文化や暮らしの価値を共有する」のとおり、内側の人だけではなく、外から来られる人と共に文化の価値を共有することは大切であり、強調するとよい。

- 和 田 委 員 長：・新たな都市像は、市民から期待されているだろう。どのようなまちをめざすのか、市民に分かりやすいものひとつあるとよい。また、バックキャストで今何をすべきなのか、どのように目標に向かっていくのかをタイム

ラインで分かりやすく提示できるとよい。

- ・ダイバーシティには、子どもや高齢者、障がいのある方、外国人、移住者等、様々な主体が含まれる。ダイバーシティを大切にする、配慮するという全体の方針、基軸があるとよい。
- ・文化・芸術・学術はリンクしているため、それぞれが融合して連携し、交流の場となるような拠点があると良い。人材育成、観光の拠点にもなりうる。

事務局（津田）：・今後、行動計画の策定に合わせて、KPI を設定する予定。行動計画については、KPI の達成状況を踏まえて毎年度時点修正をしながら、都市像の実現に向けて取組みを進めていきたい。

村 山 市 長：・北陸の中心都市としての金沢のあり方として、都心軸である金沢駅から武蔵、香林坊・片町までにどのような中心性が必要なのか、賑わいを取り戻すためには何をしなければいけないか、大きな課題のひとつだ。

- ・金沢の文化がどれだけ優れているかを離れた目線で見ると市民が少ないと感じており、金沢の文化が素晴らしいということをさらに打ち出していきたいと思い、「世界に誇る」と表現した。世界に誇るだけでなく、10年後は認められるためのシティプロモーションの視点も必要だと考えている。また、20年後を見据えて、誰もが過ごしたいと思うまちを作るための流れを作りたい。そのためには、金沢の持つ重層的な文化資源や北陸新幹線敦賀延伸等のチャンスを捉えながら、都市像を仕上げていく必要がある。これから人口減少が反転していくきっかけをこの20年間で作っていかなければいけない中で、今後10年間の歩みをして新たな都市像を策定していきたい。

5. 閉会